TSK
カナンの園
105

ヒソプ工房が地域に根ざして20年が経ち、それぞれの利用者が地域に暮らす仲間として受け入れられ、育まれてきた「絆」で笑顔という大輪の花が咲きました。

地域に育てられて20年…

1992年4月に盛岡市大館町にヒソプ工房が開所して20年目を迎えました。盛岡市の土地に開所することになったのですが、当初は幼稚園が建てられる話もあり、障がいを持つ人たちの施設がやってくるということで、一部の住民の反対運動があったとも聞いています。

先日、9月23日に20回目のカナン祭がありました。今年のテーマは「大館町ふれあい市場～今こそつながる和（わ）・笑（わ）・輪（わ）～」。このお祭りは大館町内会の地域露店をはじめ、福祉施設や特別支援学校の販売、中学校吹奏楽部や町内会の踊りのステージなど盛りだくさんの内容で約800人の来場があり、ヒソプ工房と地域との繋がりの集大成の場となっています。現在では「ヒソプさんに来てもらって良かった。カナン祭は地域のお祭りとなっている」という声もあるほどで本当に感謝だなと思います。

ヒソプ工房は、様々なネットワークのチャンネルを持っています。販売活動という面では、地域との販売先や盛岡市の生産性向上事業や県社協の障がい者就労支援振興センターとの繋がりで活発な販売活動を行っています。また、芸術活動では、いわてきららアート協会の会員施設として運営協力と作品の出品を行っています。福祉の地域づくりという面では、盛岡広域圏自立支援協議会への協力や盛岡北部と滝沢地区のもりきたエコムネットの会員施設として地域イベントへの協力や研修会、職員研修の企画・運営など幅広いネットワークの中で日々の活動を進めています。

地域にある事業所として、単なるネットワークを超えて「地域づくり」へと一歩を進められればと思います。地域の皆様にこれからも育てて頂きながらヒソプ工房は21年目の歩みに踏み出していきたいと思います。

ヒソプ工房施設長
サービス管理責任者
阿部孝司

No.105
発行日／2011年11月15日
編集／社会福祉法人カナンの園
〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町
中山字大塚4番地7
TEL 0195（36）1026
FAX 0195（36）1027
ホームページ
http://www.canaan-jp.com/
E-mail／info@canaan-jp.com

私たちが創る ブランドとコミュニティ

草地を駆ける羊とのふれあい、遊びに来る近所の子供たち、物作りの大好きな大人たちが集まる場所。この緑に包まれた工房では、常に自由で豊かなコミュニケーション（コラボレーション）を大切にしています。垣根を越えたそのような日々の交わりが、新たな希望と喜びに変えられていきます。

「バリアフリー」という言葉があります。障がい者が利用する上での障壁が取り除かれた状態として、広く使われている言葉です。しかし、ここひつじ工房アドナイ・エレは文化・言葉・国籍・年齢を超え、障がいのあるなしに関わらず利用することができる「ユニバーサルデザイン」がふさわしい場所かもしれません。

Ⅰ.「アドナイ・エレ」のはじまり

31年前、入所更生施設「小さき群の里」の敷地内に日中活動の場の一つとして建てられたプレハブ小屋が今の「ひつじ工房アドナイ・エレ」の始まりです。東京のボランティアグループ「ベルベット・ゴーデン」との出会いが、この小さな縫工科を大きく発展させるきっかけとなりました。スウェーデンのフェルト作りの技法を導入し、敷地内で飼育していた羊の毛を利用した「物作り」がスタートしました。教えて頂いたフェルト作りは、羊毛を集めて熱湯をかけ、たたいたり、こすったりして形を作っていくもので、障がいの重い方々でも比較的取り組みやすい製法でした。86年には、初めての作品展を東京で開催し、その後も東京と盛岡、遠くはフランス、スウェーデンでも展示会を開催してきました。

※「アドナイ・エレ」とは旧約聖書に出てくる言葉で〝主の山に備えあり〟という意味です（創世記22：14）。

Ⅱ. コミュニティの誕生

2004年、施設から地域の一軒家に工房を移してからは、たくさんの方々との交わりが増えていきました。福祉の関係者よりむしろ、物作りが好きで、何かを作りたくて来てくださる方がほとんどですが、突然遊びにくる近所の子どもたちを受け入れる姿も、今では日常の風景です。お年寄りのデイケアセンターを訪問し、一緒にマット作りをした時には、お手伝いする利用者の得意気でうれしそうな表情がありました。その後も、おばあちゃんたちは、毛糸で紐作りをしてくださり、ボランティアの輪が広がってきています。

毎年5月には、「毛刈りまつり」を企画します。近所の人たちや地域の保育所の園児たちが羊の毛刈り実演を見学に来てくれます。そんな時、工房の仲間たちはあらかじめ摘んだヨモギで餅を作り歓迎します。毎年、立教大学や、仙台学生センターの学生たちがワークキャンプに訪れ、羊小屋の堆肥出しや草木染めなどを手伝ってくれています。毛を扱う専門店の研修会場として利用して頂いたこともあり、時には海外からの見学者も訪れます。

ボランティアの方と。

30年前のひつじ工房アドナイ・エレ。

5000㎡の牧草地で羊が戯れ、四季の彩りを魅せる木立の中を小川が流れ、小鳥のさえずりや、野の花の香り…一軒家の工房から、いつでも四季の恵みを満喫することができます。

Ⅲ. 福祉的な視点から、製品作りのプロの視点へ！

私たちは製品作りをする上で「障がい者のために…」という言葉に惑わされないようにしてきました。みんなが「あっ、これいいね！　欲しいね」と思ってもらえる製品を作るには、支援員としての視点のみでなく、プロとしての視点が大切だからです。特に、物を作ることが大好きで集まるボランティアの方たちの役割は大切です。福祉的でない広い視点で出来栄えを評価し合えるからです。工房の作品の特徴となる「自然の素材を活かした素朴な製品作り」にたくさんのボランティアが加わることで、新しいアイデアが取り入れられ製品に幅が出てきました。それまでの素朴さを保ちながらも、年齢層や季節、用途に合わせた様々な製品が増えてきました。

Ⅳ. かけがえのない工房の仲間

ダウン症で重度の心臓病をかかえるNさんは、カナンの園を開設時から利用されてきました。37年間を施設で暮らし、晩年は24時間在宅酸素療法を行いながら、地域のケアホームで暮らしてきました。気候の暖かな期間だけ工房に来て活動してきました。工房に来られない日は、職員や工房の仲間がホームに行き、大好きな糸巻きやマットの模様付けの仕事を行いました。場所が変わっても仲間

と一緒に働けることは、彼女の喜びになったと思われます。Nさんは、何度も心不全による喀血に見舞われ、毎年のように入院を繰り返してきました。それでもいつも笑顔を絶やさず、仲間を思いやり、ボランティアや疲れた職員を励ます姿は、私たちに大きな勇気を与えてくれました。そして、今年5月17日、彼女は天に召されました。

V. いま、思うこと

工房の歩みを振り返ると、自然が奏でる彩りや薫り、動物とのふれあい、そしてそこに集う人たちが自分のペースを大切にしながら、優しさを育み今のありようが出来上がってきたように思います。それは、一つ一つの製品の仕上がりや、職員と利用者との関係にも現れています。

・援助でなく、お互いの応答で生まれていくもの。
・教える関係ではなく、お互いの個性や才能を尊重すること。
・職員と利用者の関係ではなく、物作りの仲間として互いに受け入れ、認め合う関係。

いつからか、私たち職員は「支える」ということが一方的ではない事に気づかされました。また、「支援する」ということも、単に「できないこと」へ手を差し延べることではないことにも気づかされました。そして、支援する者とされる者という関係よりも、人としての尊厳を大切にしながら背伸びをしないで、互いに認め合うことを心に留めながら過ごすことで、多くの言葉を話さなくても、分り合える関係が築いていけるように思います。

以前、特別支援学校を卒業した女性Sさんが語った言葉を思い出します。その方は一般就労したのですが、生産に追われる工場のラインについていけず、引きこもり状態に陥り、回復の兆しを見ながらしばらくアドナイ・エレでの作業に関わって頂きました。その頃、一般就労している同級生からは、「何でそんなところに行ってるの?」と言われていたそうです。後日Sさんが語っていました。「一緒に働いている工房の人たちは、一人ではできないことも多いし介助も必要な人たちだけど、いつもニコニコしているし一所懸命に働いているし頑張ってる。すごいと思うよ。そんな人たちと一緒に働けて自分は教えられるし、幸せだと思う」と。ボランティアの方たちや、体験実習生たちの多くがこの言葉と同じような感想を語って帰られます。職員同様に、何かを教えようと思っていた人たちが、教えられていることに気づいたとき、何か大きなお土産を胸に抱けると思います。

デイケアーセンターでの作業。

毛刈りまつり。

銀座「教文館」の展示会。

VI. これからの歩み

羊の放牧、毛刈り、紡ぎ、草木染めから織り作業すべてが、今いる方たちと共に作り上げてきたものです。そうして、時間を費やして出来上がった製品が多くの方に愛され、海外でも展示会を行うことができるようになりました。

しかし、製品作りに関わっている方はすでに60歳を迎えている方もおられます。医療的なケアに加え、加齢に伴う身体機能の低下が見られる方が増えてきました。昨年からは、製品作りと併行して、看護師による「リハビリ体操」を健康面の活動プログラムとして取り入れてきました。

羊毛製品として高まる評価と、生産に関わる者たちの高齢化。この問題は、生産に関わる福祉事業所の多くが必ず直面する課題です。

5月に亡くなられたNさんは、何度も死の淵を乗り越え、それでも仲間と一緒に製品を作ることに喜びを持っていました。一般就労の後ボランティアで関わったSさんは、互いに笑顔の中で過ごす人達の姿から、お金には換えられない生きる喜びに気づいた一人です。

世界のブランド「アドナイ・エレ」として東京にお店を出したいという夢を語った時があります。でも、「奥中山にあるこの工房に来て良かった」「あなたに会えて良かった」「生まれてきて良かった」と思える人生を、羊毛製品作りを通して互いに感じ合えるアドナイ・エレこそ、めざすブランドと信じてこれからも歩んでいきたいと思います。

小さき群の里　副施設長　戸田睦子

展示会のお知らせ

ひつじ工房アドナイ・エレ展

2012年1月22日（日）～30日（月）
場所：東京銀座「教文館」
連絡先：小さき群の里
TEL&FAX　0195-35-3080
＊展示会開催中のボランティアを募集しています。

NEWS

●――となんカナン

待望のA型事業開始

となんカナンでは8月1日より待望のA型事業が開始されました。いつかいつかと待ちどおしい気持ちでいっぱいでしたが満を持しての船出になりました。さて、現在従業員は4名と職員1名で携わっています。主な仕事は、カナン牧場のパンの配送業務や外部販売です。配達は朝4時にとなんカナンを出発し奥中山に向かいます。カナン牧場からパンを積み込み花巻へ向います。花巻でパンを降ろしたあとは国道4号を紫波町、矢巾町と北上し盛岡市内に到ります。市内を何カ所か回った後、滝沢村の菓子にて転送便の荷を受けその後2便に別れ、盛岡市内各所を配達して回ります。配達ルートは曜日ごとに違い、月、水、金曜日は主に滝沢村や青山方面を回ります。火、木、土は主に松園から市内中心部を回ります。外部販売業務は、となんカナンのB型事業や就労移行事業で製造されたワッフルやシフォンケーキ、プリンやシュークリームといったお菓子類を近隣の企業や施設を回って販売しています。毎日の振り返りの中で様々な反省点が出され、次に繋げようとしている様子を見ていると、働く人となったことで一人ひとりが自覚を持って取り組んでいることがわかります。まだ戸惑いや失敗もありますが、皆、一生懸命配達ルートを覚え、早く独り立ちできるようにと励んでいます。常に安全運転を心がけ、持ち前のバイタリティーあふれる面々で初の冬場をしのぎ、がんばって行きたいと思います。

（となんカナン　相馬康雄）

お互いに情報交換を。
欠かせないのが
「報・連・相」！

出発前の確認！

●――カナン祭

新しい出会いの中で…　笑顔あふれたカナン祭

3月11日の震災以来、私たちに何ができるかを考えてきた中で、今年のカナン祭では、被災した福祉事業所の方をお招きすることにしました。声をかけさせて頂いた事業所の中から、田野畑村にある「ハックの家」のメンバーとスタッフの方合わせて7名が奥中山学園会場に参加頂けることになりました。前日夕方に到着した皆さんには、保護者、職員との「お天気祭」（懇親前夜祭です）から参加して頂きました。震災で、ハックの家のメンバーやスタッフの方々への直接的な人的被害や、施設本体に被害はなかったものの、中心的な作業場だった水産加工場が全て流されてしまったり、家が流された方もいたそうです。また、日常的な移動手段である三陸鉄道が不通のため、外出の機会が極端に減ったこともあり、ふさぎ込みがちな日々を過ごしていたそうで、今回のカナン祭を本当に楽しみに待っていた、と話されていました。

そして、カナン祭当日。ハックの家の自主製品である「花咲き織り」の製品や震災後に新たに取り組み始めたという漬物の販売をして頂きました。お客様との触れ合いを楽しみつつ、店番を交代しながら、他のカナン祭の会場巡り等も楽しんで頂けたようです。人と人が出会い、互いを知り、共感し、その中で互いの暮らしや姿に想いを馳せること。それが、新たな希望につながることを実感できたうれしい出会いでした。

（カナン祭担当　佐々木香織）

開会式で皆さんに紹介

大勢のお客さまがいらっしゃいました。

NEWS

●――ウィズ

ウィズの豪華北海道旅行　～初体験がいっぱい！～

今年度のウィズの旅行は、行き帰りともフェリーに泊まる3泊4日の強行スケジュールでしたが、皆さんの希望が最も多かった北海道に行ってきました！

青森港（震災のため八戸港が利用できず）までの車の中は、日中の仕事疲れもあるのかとても静かでした。が、ライトに照らされたフェリーを見たときには「ウァ～‼」と歓声が上がり、乗船した後は、船内探索する人、お風呂に入る人、ビールを飲み始める人、インスタントラーメンを食べる人（夕食は済んでいました！）、他の乗客の方と会話を楽しむ人等々、バスの中の様子が嘘のように、夜遅くまでワイワイと楽しんでいました。

早朝に到着した苫小牧は霧が深く「ここは青森？」って言われ、思わず苦笑いです。最初の目的地のジャパンテック苫小牧工場（PETフレークの取引先）では、社員の方に大きな工場を案内して頂き、皆さんの質問、珍問にも丁寧に答えてくださり本当に感謝でした。その後、登別マリンパークでアシカやイルカのショーを楽しみ宿泊場所の〝登別グランドホテル〟へ。ホテルではいつものように飲んで歌っての大宴会で盛り上がり、最後は全員で〝北国の春〟を歌い楽しい夜を過ごしました。次の日も、大倉山シャンツェ、羊が丘展望台、開拓記念公園等々、時間の許す限り北海道を満喫し帰路につきました。さすがに青森から奥中山までの車の中は…みんな夢の中。初めてのことをたくさん経験した、思い出の残る楽しい旅行となりました。

（ウィズ　大谷尚美）

あっちの方は何がある？

ヨッ！　皆元気！

●――生活支援センター

Iさんとの外出

ケアホームで生活しているIさんは月1回プールへ行くことが楽しみの一つです。

自分なりの独特なこだわりがあるIさん。プールへ行く前に様々な行動を見せてくれます。まずは、ケアホーム前で車に乗るときに自分なりの独特の儀式があります。終わらないと車に乗ることができません。短いときは数分で終わりますが、長いときは数十分かかるときも…。

儀式が終わり、プールへ向かう車の中でもIさんは独特の行動をしています。「しょうがっこう」「ようちえん」「よそおうち」と次々と一人で言っています。何を言っているかというと車の中から見えるものをしゃべっているのです。言う場所と言うものは毎回決まっているのですが、言い方が独特でついこちらも一緒に反復したくなってしまいます。

Iさんはプールに着くと後のことはすべて自分で行います。受付の人とのやりとり、更衣室での着替え、何も言わなくても自分でプールに入ります。流れるプールをぐるぐる歩いたり、ジャグジーにつかったりと約1時間のんびりと楽しんでいるようです。

プールから上がると、中華料理屋さんでご飯を食べるのがお決まりのコースです。注文するのは決まって味噌ラーメンとチャーハンとファンタ。すっかりお店の常連になり、店員さんも食べにくるのを心待ちにしてくれています。

独特のこだわりがあることでスムーズに動くことができないときもありますが、ほとんどのことを自分でこなすIさんにいつも感心させられ、Iさんの独特の雰囲気にいつもこちらが楽しい気持ちになってしまいます。Iさんが楽しむことができるよう支援しているはずなのですが、支援しているこちらを和ませてくれるIさんの人柄にいつも感謝です。

（生活支援センター　村上　篤）

プールの前で1枚。

昼食前は雑誌を読んでいます。

ことばひろい　第3回

「友達を大切にしてほしい…」

三愛学舎
伊藤和彦

9月7日、カナン牧場の従業員による自治会「エピの会」の代表者3名が、総合学習の時間、生徒に〝出前授業〟をしてくれました。昨年も「働くこと」というテーマで後輩たちに授業をしてくれています。今回のテーマは「友達について」です。事前の打ち合わせで、代表者の一人が、「卒業して、働くようになると、つらいことも多いけど、困ったときに相談できる友達が励みになる。そんな友達を大切にしてほしい」そのことを後輩たちに伝えたいということで。当日は、自由な討論ができるようにと、3人の先輩も生徒の間に入り、椅子も丸く円になるように並べ、〝しゃべり場〟をつくりました。サポート役の教師が円の中で、意見の要約を記録します。今回はワークショップのようなイメージとのこと。エピの会メンバーの「みんな、友達はいる？　三愛に入ってから友達できた？」という質問から〝しゃべり場〟がスタートしました。

「先輩と友達になった。作業が一緒だったので」

「ごく自然に友達になった」

「学校に慣れると、普通に話せるようになった」

「スポーツとかやっているうちに、お互い声をかけているうちに友達になった」

「趣味つながりで友達になった」

「アニメが好きなもの同士で友達になった」等。

生徒が話し始めると、次から次に話題が広がり、脱線しては戻りの自由な〝しゃべり場〟になりました。自分から話せないでいる生徒にも話しを向けてくれて。

中学校時代の頃の話題になった時、生徒からこんな話しが出ました。

「（中学を卒業して）普通の学校に散らばっている。今は会いたくない」

「仲が良かった友達に似ているなと思ったけど、恥ずかしくて話しかけられなかったことがあった。（その友達は）普通の高校に行ったので。どうしたら勇気だせるのかな？」

「嫌な人いましたか？」

そんな問いかけに先輩は「（俺も）小、中学校の時の友達と会いたくなかったけど、会ってみると、30歳過ぎると、ああ、自分で壁をつくっていたんだなあと、わかることがある。自分からアプローチしていかないと、友達はつくれないとわかった。思い切ってアプローチして」とのアドバイス。

授業が終わり、エピの会メンバーは、「今回は、生徒の迫力に圧された…」「緊張して…」と少し反省点もありましたが、伝わっていたと思います。考えてくれたと思います。

エピの会の先輩たちが、後輩にこんなメッセージを送ってくれました。「自分のこと、社会のこと、疑問に思ったことを、先生も生徒も腹一杯しゃべれるような雰囲気で、そんな仲間がいてほしい。仲間がいるのが専攻科だから」

これからも宜しくお願いします。

〝お互いに学び合う仲間として〟。

からし種

※1粒のからし種は約1～2㎜
（聖書　マタイ伝13：31）

心あたたまる小さなお話

「ヤッター！　景品ゲット！」

今年のカナン祭もシャローム、ウィズ合同で企画し、シャロームは屋内で喫茶と販売、ウィズは屋外でゲームコーナーを担当しました。ゲームはペットボトルで作ったボーリングと輪投げです。しかし、なかなかストライクやスペアーが出ません。それをずっと見ていたウィズのメンバーのNさん。「投げてもいいの～?」「順番にね」と言われ、子どもたちに交じって並び、1投目は7本！　そして2投目はなんと見事3本を倒し、今日初めてのスペアー！　「すご～い！」とみんなの歓声に「ヤッター！」と大喜び。子どもたちよりも先に景品をゲットし、次は輪投げに並ぶNさんでした。

（ウィズ　西舘益美）

がんばっています

とだきゅうではたらいています。
でんしゃでかよっています。
ふだんはテレビをみています。
さしことパズルをやっています。
そうじきをかけてせんめんじょうをそうじしています。
たまにはもりおかにいっています。あそびにいっています。
まいにちげんきでいます。
きょうかいにあるいていってます。

（支援センター　西舘久美子）

実りの秋

いつも明るく、にぎやかに振る舞ってくれるSさんはエフラテの頑張り屋さんです。小柄な身体ですが力には自信はあります。重い空き缶を運び入れる仕事は誰にも負けません。そんなSさんに、思いがけない出来事が昨年の夏にありました。春にせっせと汗を流し草地にブルーベリーの苗を移植し、夏の暑い日は毎日水やりをして日々の成長を見ては、実がなることを待ち望んでいました。8月には、3粒の実を見つけて、会心の笑みを浮かべるSさんでした。ある日、3羽のカラスが大切に育てた実を啄んでいたのです。それを見て急いで駆け付けるものの間に合わず、カラスは空高く飛び去り、がっかり肩を落すSさんでした。その悔しさから今年度は必死に果樹を見張り、収穫の秋を迎えて、Sさんもめでたく実を口にする事が出来ました。

（小さき群の里　釜石喜代実）

エピの会ボウリング大会

9月18日、カナン祭の次の日エピの会ボウリング大会を盛岡のマッハランドで行いました。従業員と職員がそれぞれ会場に集合しました。私は実行委員で日にちを決めたり、会場を決めたり景品を準備したりしました。

職場の人たちと初めてボウリングをして、働いている時と違って大声を出して喜んだり、笑ったりしていました。職員では、築野さん、釜石さん、渡邊さん、従業員では広大さんが上手でした。

私はボールがまっすぐ行ったりまがったり、ガーターばかりだったりピンが1本しか倒れなかったりで景品は参加賞しかもらえずがっかりでした。でも楽しかったです。充実した会だったと思うけど、もうちょっとうまくなりたい。今度ボウリングを遊びで行ってみたいです。そして来年も楽しくボウリング大会をやりたいです。

（カナン牧場　前川美香）

2人はいつも

オーロラ寮3年目のYくんとMさん、2人はお互いのことをよく知っている間柄、いつも夕食の後片付けをしながら、おしゃべりを楽しんでいます。これまでの話題の中心はテレビ番組やアイドルのことでしたが、職場実習を控えた最近の2人の話題は、もっぱら自分たちの将来のこと。仕事のことやお給料のことを真剣な顔で話しています。みんな、こうやって大人になっていくのだな…としみじみと思いながら、たまに『嵐』の話題で盛り上がっている2人を見ると安心したりするのでした。

（奥中山学園　滝澤愛美）

編集者　社会福祉法人カナンの園
〒〇二八―五一三三　岩手県二戸郡一戸町中山字大塚四番地七　☎〇一九五―三六―一〇二六

発行所　東北障害者団体定期刊行物協会（略称ＴＳＫ）
〒九八一―〇九〇七　宮城県仙台市青葉区高松一丁目四―一〇　頒価百円

EVENT CALENDAR　12月～3月

●―――奥中山学園
12／23　クリスマス会
2012年
3／17　卒園式

●―――小さき群の里
11／1　秋期研修
12／23　クリスマス祝会
12／28～2012年1／4　冬期休み
1／5　新年礼拝
1／6～8　山形学院高校ワークキャンプ
1／22～30　アドナイ・エレ展：東京銀座「教文館」
2／18　雪まつり
3／27　終農式
3／28～4／2　春期休み

●―――ののさわ
12／29～2012年1／4　冬期帰宅
3／28～4／1　春期帰宅

●―――ヒソプ工房
12／17　クリスマス会
12／30～2012年1／3　冬休み
1／21　新年会
2／18　クラブ活動
3／17　クラブ活動

●―――カナン牧場
12／30～2012年1／5　年末年始休業

●―――シャローム
12／17　クリスマス会
12月下旬　御苦労さん会
12／29～2012年1／3　冬休み

●―――ウイズ
12／17　クリスマス会
12／29～2012年1／3　冬休み

●―――となんカナン
毎週日曜日　礼拝
毎週月曜日　カフェおーでんせ休業日
12／30～2012年1／3　冬期休業
3／23～25　臨時休業

●―――三愛学舎
12／27～2012年1／13　冬期休み
1／21　専攻科成人を祝う会
1／27　2012年度入学試験
1／30～2／17　専攻科後期Ⅱ職場(校内)実習
3／16　2011年度修了式
3／17　2011年度卒業式
3／21～31　年度末休み

●お知らせ

シュトーレン　1930円（1ポンド）
出来立てよりも、日が経つほどに味わい深く、美味しくなってくる不思議なお菓子。
好きな時、好きなだけ。
クリスマスを待ちながら…
ご予約受付中　カナン牧場
TEL 0195-35-3505
FAX 0195-35-3145

クリスマス礼拝
12月23日（金）三愛学舎を会場にカナンの園クリスマス礼拝が行われます。カナンの園に関わる人々を中心に、一堂に会し、賛美礼拝と降誕劇を行います。どなたでも参加できますのでお気軽にお出かけください。

ののさわ事業所第5・第6ケアホーム完成
ののさわ事業所第5ケアホーム、第6ケアホームの２棟につきまして無事に工事を完了し、それぞれに（10月、11月）落成式を執り行うことができました。旧入所施設敷地内での生活から地域での生活に全て移行できました。今年のクリスマスは新居で迎えることができます。ご報告とともに皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

「カナンの園ＩＮ東京」開催
日時：2012年1月21日（土）
場所：銀座教文館
問い合わせ先
TEL 0195-36-1026
事務局　岡田正弘

「株式会社　ツルハホールディングス」様より車イス１台を寄贈して頂きました。大切に使わせて頂きます。

あとがき

天候が不順な今年です。世界各地で被害に遭われ方々がたくさんおられます。皆様の一日も早い復興をお祈り申しあげます。（岡田）

●機関誌「カナンの園」では、読者の皆さまからの声もお待ちしております。機関誌カナンの園に対するご意見、ご感想を、事務局までお寄せ下さい。

カナンの園法人事務局
〒028-5133
岩手県二戸郡一戸町中山
字大塚4番地7
TEL 0195（36）1026
FAX 0195（36）1027
郵便振替 02330-6-6631
ホームページ
http://www.canaan-jp.com/
E-mail／info@canaan-jp.com

本誌は再生紙を使用しています。

社会福祉法人カナンの園

奥中山学園（児童入所）
☎0195-35-2314・FAX 0195-35-3406

生活介護事業所　小さき群の里
☎0195-35-3080・FAX 0195-35-3080

共同生活介護事業所　ののさわ（ケアホーム1～6）
☎0195-35-2232・FAX 0195-35-3405

生活介護事業所　ヒソプ工房
盛岡地区ケアホーム（1～4）
☎019-646-8581・FAX 019-646-8582

生活介護事業所　シャローム
☎0195-35-2883・FAX 0195-35-2884

就労継続支援B型事業所　ウィズ
☎0195-36-1120・FAX 0195-36-1121

多機能型事業所　カナン牧場
☎0195-35-2583・FAX 0195-35-3145

共同生活介護事業所　美空（ケアホーム1～10）
☎0195-35-3844・FAX 0195-35-3840

居宅介護事業所　れもん
☎0195-35-3844・FAX0195-35-3840

多機能型事業所　となんカナン
☎019-681-3004・FAX019-637-2601

学校法人カナン学園

三愛学舎（特別支援学校・知的）
☎0195-35-2231・FAX 0195-35-2781